

とどろき利治の

メン!!

国会 一本勝負

プレス民主 号外 《発行元》民主党参議院比例区第5総支部

轟木利治事務所 参議院議員会館 518 号室 Tel:03-3508-8518/Fax:03-5512-2518

ご安全に、とどろき利治です。与党は第2次補正予算を今臨時国会ではなく、来年年明けの通常国会に提出しようとしています。年末での中小企業の資金繰りなど経済対策を名目として解散を先送りしたのにもかかわらず、その裏づけとなる予算の審議を行わないというのは筋の通らない話です。こんな中でも通常の委員会は開催されるようになっており、私は環境委員会で質問に立ちました。今号ではその内容についてお伝えします。

国内排出量取引の試行実施、CO₂は金融商品なのか

11月13日の環境委員会では、斎藤環境大臣が行った所信表明に対して質問しました。10月より国内排出量取引が試行的に実施されており、今回はそれに的を絞りました。この制度は、CO₂に取引価格をつけて「排出枠の足りない企業」が「排出枠の余った企業」から購入するような市場をつくらうとするものです。今回は、それが実需にもとづく取引なのか、マネーゲーム的な要素は無いのかという点を中心に質問しました。「CO₂を金融商品として位置づけるのか」という問いに対して、「金融商品的な側面を100%否定することはできない」、つまり投機的な取引もありうるということです。このことは大きな問題であり、これからも国会で追及していきたいと思えます。質問内容をまとめてみましたので、お目通しいただければ幸いです。



質疑・答弁要旨

- **轟木利治** この制度全体として、最終的な姿をどのような理念をもって試行しようとしているのか。
- **国務大臣** これがマネーゲームにならないように、日本のものづくり産業の成長につながるように、こういう基本的考え方で実行してまいりたいと思います。
- **轟木利治** 今回市場で取引されるCO₂は金融商品という位置づけになるのか。
- **国務大臣** 金融商品とみなされる側面はあると思いますが、現在の世界の中で金融商品として取り扱われているとは考えておりません。
- **轟木利治** CO₂の取引価格が実態よりも非常に高くなると、そちらに資金が流れ、設備投資ができなくなってしまう。これは日本の製造業の衰退を招く危険がある。大臣はマネーゲーム化しないといっているが、制度上はその可能性がある。取引の主体のうち、「取引参加者」とは何か。
- **政府参考人** これは商社、銀行等を想定しています。そこで海外企業、外資系の投資銀行等についても排除しているものではございません。
- **轟木利治** こういった取引参加者は、参加するだけでCO₂を買い、ストックすることも可能なのか。
- **政府参考人** この市場は基本的に自由な経済活動を中心に運営される市場ですので、ある程度安いときに買って高いときに売るといったような投機も生じる余地はあろうかと思えます。
- **轟木利治** 今の説明は大臣の答弁と違うのではないか。
- **国務大臣** 排出量取引ですので金融商品的な側面を100%否定することはできないと思います。オープンな市場の中で価格がつけられることもある程度必要だろう、要はそのバランスの問題と認識しております。
- **轟木利治** 市場で実際にCO₂を減らしていく業界じゃない人たちが、買い占めていくことが本当に実需に合うのか非常に疑問に感じる。今回は試行だが、十分注意する必要がある。

次に、目標設定で原単位も設定できるとされているが、それと生産量との関係はどのようなものか。原単位で目標を達成しても、生産量が増えて、CO₂排出量が増加した場合はどうするのか。
- **政府参考人** あまり統制経済的なことは本来この制度の趣旨に合いません。そういう場合もありうると考えております。
- **轟木利治** 対象ガスをエネルギー起源のCO₂とした理由は何か。地方自治体の焼却炉が対象になっていないのは何故か。
- **政府参考人** 今回の試行は経団連の自主行動計画のフレームを利用しており、そこでエネルギー起源のCO₂が対象となっており、それとの整合を図るという意味です。セメント製造など工業プロセスや廃棄物の焼却などについて、市場で流通させるまでモニタリングの精度が上がっていないと思っております。

